

## 橋本 祐希 氏の学位審査結果の要旨

主査：人見 浩史

副査：北田 容章、岡崎 和一

Adipophilin (ADP)は細胞質内脂肪滴上に存在するタンパク質であり、いくつかの癌腫において予後との関連が報告されているが、膵癌での発現率や予後との関連は検討されていない。本研究では膵癌における ADP 発現を解析し、臨床病理学的因子との関連を検討した。当院で肉眼的根治切除した膵癌症例 181 例を対象とした。ADP 発現は tissue microarray を用い、免疫組織化学的に検討した。結果は 51 例(28.3%)が ADP 陽性であった。ADP 陽性症例では、低分化型腺癌、CA19-9 高値、腫瘍遺残度(R1)が有意に多く、また予後不良かつ無再発生存期間の短縮を認めた。多変量解析においても、ADP 陽性は全生存期間及び早期再発の独立した関連因子であった。

膵癌切除検体における ADP 発現は予後不良因子であることが示された。ADP は膵癌細胞における代謝の変化を反映している可能性があり、本研究の結果は ADP 陽性膵癌患者に対する新たな治療戦略の開発に有用な知見であり、学位に値すると考える。